

内容

* 情報共有セミナー開催報告

事務局

* 情報共有セミナー開催報告

事務局

本年度総会において開催が提案されましたセミナーが開催されましたので、報告させていただきます。

このセミナーは全国各地の組織が日々活動を続けるなか、夫々の活動を知ることで自組織の課題や発展の一助となることを目指しています。

案内にありますように4月20日21日で進めてまいりましたが、4月17日豊後水道で地震が発生し、愛媛県愛南町で震度6弱を観測しました。愛南町では石垣の崩れや屋根瓦の落下など有りましたが、幸いなことに人的被害は無かったと聞いております。このため愛南町在住の長野理事長を始め正光会から参加予定の皆様は参加は不可能となりました。少人数の参加となりましたので、2日間の開催は止め20日一日のみの開催とさせていただきます。

第1回情報共有セミナー

セミナーは4月20日(土)15:00からレンタル会議室「AP新橋」Mルームで開催しました。参加は当初11名の予定でしたが、上記理由等により7名となりました。そして4組織から情報の提供を頂きましたので、内容を簡単に報告させていただきます。

1. 広島県尾道市「尾道のぞみ会」

橋本 周治

平成30年度から尾道市の委託を受け実施している「こころサポート事業」のご報告になります。

この事業は自殺対策を目的として始められました。

概要として先ず目的は、住み慣れた地域での生活の維持や継続困難な精神障がい者に包括的支援を行うことと共にご家族の穏やかな生活を支えることを掲げています。

対象者は精神科未受診者や医療中断し地域生活にお困りの方です。

支援内容は保健師・精神保健福祉士・社会福祉士や必要に応じ関係職種でアウトリーチ支援チームを編成し、課題を考え安心して生活が出来るように支援します。

尾道のぞみ会からは2名が委託職員として市の職員と共に業務にあたっています。

年間の支援や調整数は1600件ほどで1日にすると10件以下なのですが、増加傾向にあります。そ



して社会的孤立になっている方は統合失調症地うつ病の方が圧倒的の多くなっています。

実践から見えた課題として、尾道市は三原市と共に尾三圏域なっており引きこもりやご家族に対する専門相談場所は三原市に置かれているため、アクセス等の問題があり相談体制整備が必要と思われる。また尾道市は山間部や島嶼部が多く、精神科往診システムの確保が必要と思われる。

相談者の年齢は30歳から50歳代が最も多く、働き盛りのメンタルヘルスの課題が見えてきています。

また高齢者関係からのご相談も多くあり、8050や9060問題もあるように感じています。有り難うございました。

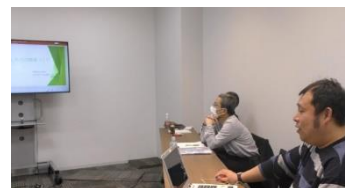
◆年代別			◆地域別		
	登録者	登録外		登録者	登録外
10代			旧尾道	4	13
20代		1	御調	1	
30代	1	6	因島	1	4
40代	3	3	瀬戸田		1
50代	2	7	市外		2
60代			合計	6	20
70代		2			
80代		1			
不明					
合計	6	20			

2. 島根県出雲市「エスポアール出雲クリニック」

形部 周平

以前 RPJNews で報告させて頂いたことがありますが、今日は「わたしたちの職場づくり」について報告させて頂きます。

出雲市は総人口が17万人ほどで障がい者手帳所持者は10,794人います。内精神は1,764名になっています。でも実際はもっと多くの方がいらっしやと思います。障害者総合支援法における障害福祉サービスを見ると、最近就労継続支援B型が急激に増加しています。しかし外観からは判断付かない組織が多くあり、なかなか情報を得にくいところがあります。



当たり前の地域生活と考えたとき、イタリアを見たりヴィレッジの話を聞いたりしても、精神障がい者の人としての権利回復、脱制度化と地域生活を大前提とした、必要な地域精神保健サービスを構築しているとのことで、これを目指していきたいと考えています。

この様な事から働く場としてエスポアールファームの農園づくりに係わっていきます。

出雲市はデラウエアというブドウが有名な地域ですが、年々高齢化が進み耕作放棄地となりビニールハウスの残骸が残るところが多くあります。そこでその様な場所を再利用出来ないか、ということと、障がいのある人の多くは「働きたい」「社会と繋がりたい」という思いを持っているので、障がい者の働く場として再利用すれば地域貢献にもなると考えています。

元々我々はバナナ生産の考えで皆さんにクラウドファンディングでお願いしたのですが、頓挫してシイタケ栽培に舵を切りました。シイタケとなると水道が必要で、以前考えていた場所は上水道が無く設置には高額投資が必要になるのに補助金対象外であるため現在の場所に移動しました。



シイタケ栽培では菌床も出雲市の工場製で「出雲シイタケ」として販売を始めています。シイタケは通年栽培が可能で環境の変化も少なく、スキルも必要無いということで順調にスタートしています。年間4万菌床収穫50トンとなっております。そこでファームとして2名の雇用を生んでいます。今後雇用を増やしたいのですが、温度管理等での経費増加や最低賃金の上昇など未だ難しい状況にあります。シイタケのみに依存しては売上アップになりにくいので、今後どのように進めていけば良いのか思案中です。



雇用の在り方に関して、ご本人の体調や気分、ペースに合わせた時間帯の勤務、働いた時間は最低賃金以上を保証する。「仕事はこうでなければならない」をなるべく減らし、仕事を通じてその方が元気に

なれることを大切にしたい、と考えています。しかし現在、社会全体が多様性を認める方向に動いており自然にその方向に向かえば良いのかなとも感じています。また販路は現在業者を通しており手数料を取られているので、我々が開拓すれば手取りを増やすことが出来るとの考えもあります。

院長を先頭に、我々の思いは有るのですが、現実は大変な状況です。会社としては未だ未熟ですので、先をイメージしながら着実に上手く経営していき、希望する働き方が沢山出来るように目指していきたいと思います。

有り難うございました。

3. 青森県弘前市「株式会社つがるねっと」

貴田岡 武

平成 29 年に「株式会社つがるねっと」を立ち上げました。そして就労継続支援 B 型を作る相談を市にしたところ、B 型は充足しているとのことで A 型も一緒に作るよう指導が有り、現在 A 型定員 20 名 B 型定員 10 名で運営しております。



A 型では清掃・農福連携のりんご作業等の施設外作業と、調理・内職などの施設内作業が有ります。農福連携では、弘前市はりんごが取れますので、りんご作業が有ります。また内職の中に弁当の蓋を加工する仕事を継続的に頂いております。



B 型ではコーヒー豆の選別・粉碎・袋詰め・印刷など全てを行っております。「津軽お化け珈琲」は、障がいのあるイラスト作家さんの地域紹介型で、「弘前ねぷた珈琲」はねぷたの若手絵師支援型、その他ダウン症の方、養護学校の生徒さん、若年性認知症の方々の作品をリメイクしてパッケージに使用した「オリジナルイラスト珈琲」が有ります。その他津軽塗の伝統工芸とコラボ商品も扱っております。

先程も触れましたが、弘前といえばりんごが有名で農福連携作業でりんごの請負作業が有ります。この作業では、障がい者を雇った農家さんに初年度は雇った経費の 2/3、2 年目以降は半分を市が補助金として農家さんに支給しています。また農福連携のアピール用にポスターの作製もしております。夫々 1 枚の紙なのですが、写真と共に想いやアイデアを入れて、市の農政課や県の担当課、農家さんに持って行ったりして農福連携促進のため視覚的アピールもしています。



今年新たなチャレンジとしてミニトマト栽培を考えております。これは高齢化で耕作放棄地になりそうな場所を引き受ける形で始める予定です。農業から町づくりの足がかりを作っていきたいという思いを持っております。



4. 大分県中津市「寺町クリニック」

太田 喜久子

今回は多機能型精神科診療所利点と今日的課題という形でお話ししてみたいと考えています。

大分県は 105 万人ほどでクリニックのある中津市は 83,000 人、周辺地域を含めると 24 万人ほどです。その中で精神科クリニックは 3 か所と精神病院が 1 か所あります。



寺町クリニックは 1994 年に開始しまして、現在職員 16 名で 1 か月の外来数 1,255 名うち初診者 40

名です。デイ・ナイトケア、往診・訪問診療・訪問看護をやっております。また定員 10 名のグループホームも行っております。

自立支援法が出来たとき、NPO 法人びいあが独立して就労と生活の場を持つことになりました。そこに職員が 13 名おります。

2006 年多機能型事業所を開設できる事が分かり、デイケアで取り入れていた林業やパン製造や内職などを纏めて就労事業所として始めました。当時は移行支援と B 型がゴチャゴチャになっていました。

2016 年多機能型精神科診療所研究会に参加しました。医療の中で診療・デイケア・就労まで生きるということ繋げていくことで垂直統合とっておりました。また NPO と関係を持つことを水平連携とっております。これは医療の方で診ていた方が良くなったら福祉の方で見ていこうということです。

グループホームについても医療に入るグループホームと NPO のグループホームがあります。医療の方は危機介入型のホームで NPO の方は住居という考え方です。

多機能型精神科診療所の条件が有りまして、外来診療が有る、デイケアや通所サービスを持っている、訪問看護または訪問診療が有る、24 時間電話対応やコメディカルによる相談等が有る、そして必須条件として職員ミーティングが週 1 回以上定期的に行われていることです。

私が 30 年前に診療所を始めたときは、医者と患者が向き合っていくメンタルクリニックが主流でしたので、「色々なものを持つのは精神病院と変わらない」と批判されたことが有りました。しかし多機能型診療所というところに入らせて頂いて、「本当に、この様な診療所が地域を作っていくのだ」という様に自信を持てるようになりました。そして理念を共有することと基本方針を明確にしています。

多機能型は医療の抱え込みではないと言われることが有りますので、最近垂直統合はあまり言わないようにしています。診療所ではお金は無いし地域の中に開かれていますので、地域での水平連携が進んでいますので、決して抱え込みにはなっていません。

多機能型では複数の医師という条件が有りますが、私くらいの年齢になるとご病気で診療所を続けられないが非常勤なら勤務できるという方がおられますので、現在はその様な方をお願いして複数体制になっております。そのため往診が出来るようになりました。往診を始めると、在宅希望の高齢の統合失調症の方や、地域から孤立している一人暮らしの方、80-50 問題で遠くの病院には通えない方たちの生活が見えるようになってきました。

寺町クリニックは 15 件のお寺の中の一隅にあります。足の便が良く、地域に繋がっており、学校・市役所・保健所などが近いところにありますので、地域の中で色々な資源をつないでいける環境にあるのかと思っています。

これからは多職種チームの力を引き出していくということで、スタッフが自主的な視点を広げて活動していける体制に進めて行ければと考えております。有り難うございました。



—編集後記— 地鳴り、大きな揺れ、そして緊急地震速報。とうとうきたか「南海トラフ」と感じました。その後、愛南町震度 6 弱という速報。その瞬間から全国から心配の連絡をたくさんいただきはじめました。即座に地域の医療保健福祉災害ネットワークの LINE グループで自身の無事を伝えつつ、被害状況を共有していきました。幸い、6 弱揺れたのは局所的で人的被害はなかったものの、建物のダメージは後になってわかってきました。そして、熊本の時のような大きな余震、もしくは本震が起きるのではというおそれがあり、地域の災害医療コーディネーターを引き受けているため愛南町を離れることが難しい状況でした。

今回のニュースはセミナーの概略となりました。もちろん、そこで議論された内容にさらに価値があると思います。残念ながら紙面の都合でそこまでの掲載は難しかったのですが、動画もありますので、今後更に深める機会をもてればと感じています。(長野)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会